

# イスタンブールの都市火災

1923-1965 年

東京理科大学 工学部第二部 建築学科  
辻本研究室

5110432 渡邊 亮子

# 目次

1. 序論 .....	1
1.1 研究の背景・目的 .....	1
1.2 研究方法.....	1
2. 既往研究.....	2
2.1 イスタンブールの火災について .....	2
3. 研究概要 .....	3
3.1 İSTANBUL YANGINLARI の概要.....	3
3.2 文献より読み取れる火災の概要 .....	4
3.3 イスタンブールの歴史.....	5
4 イスタンブール火災の分析.....	7
4.1 年別火災発生件数 .....	7
4.2 火災の発生地区.....	8
4.3 火災の発生月 .....	10
4.4 火災発生場所の用途 .....	12
5 まとめ .....	13
5.1 まとめ .....	13
5.2 今後の課題 .....	13
参考文献 .....	14
謝辞.....	15

## 1. 序論

### 1.1 研究の背景・目的

イスタンブール大都市自治体（以下イスタンブール/図 1.1）はトルコ北西部に位置し、トルコに 16 ある大都市自治体の 1 つで 面積は 5,343 k m<sup>2</sup>、イスタンブール県と同一の広がりを持つ、同県の県都である。通常イスタンブールというと、マルマラ海周辺の旧市街地を差す（イスタンブール歴史地区）。

「イスタンブールにおける 15-20 世紀の都市火災」<sup>1)</sup> では、「イスタンブール火災史」<sup>2)</sup> を基に 1478-1918 年の火災を分析している。

本論では 1918 年以降の火災について記された「İSTANBUL YANGINLARI（イスタンブールの火災）」<sup>3)</sup> という文献を基に 1923-1965 年の火災について調査を行い、1478-1918 年の火災と比較し分析・考察する。

### 1.2 研究方法

「İSTANBUL YANGINLARI（イスタンブールの火災）」は約 350 頁に及ぶトルコ語の文献のため、まず翻訳作業を行った。はじめに、全頁のスキャンと OCR（文字認識）処理を専門業者に依頼した。

文字認識により得られた文章を、ウェブサイトの Google 翻訳 (<https://translate.google.co.jp/>) を使用し翻訳作業を進めた。

翻訳された文章は不明解なものであり誤字や誤訳が目立つが、読み取れる内容から、1923-1965 年に起きた火災の概要を抜き出すこととした。



図 1.1 イスタンブールとイスタンブール県の位置

## 2. 既往研究

### 2.1 イスタンブールの火災について

イスタンブールの火災についての研究は、廣瀬 拓哉<sup>4)</sup>、田中傑<sup>5)</sup> が火災保険地図を基に火災の発生地区、構造別、居住地区別の火災発生状況の分析、倉橋 佑介<sup>1)</sup> が「イスタンブール火災史」を基に 15-19 世紀の火災の概要、延焼経路の分析が行なわれている。また、火災歴史は江戸をはじめ様々な都市で行われているが、西田幸夫<sup>6)</sup>が江戸東京の 400 年間の火災被害についてそれぞれの時代における傾向や特性の分析を行っている。

### 3. 研究概要

#### 3.1 İSTANBUL YANGINLARI の概要

序文から、この文献は TARIK ÖZAVCI 氏により 1965 年に出版されたものであり、同氏は消防関係者であることがわかった。主な内容は 1923-1965 年に起きたイスタンブール県における火災の概要と消防活動である。消防活動の報告書に基づき、火災発生時刻から消防隊の到着、消火に至るまで記載があるものもある。特に 1950 年代以降は消防活動が詳細に記載されているものが多くあった。



図 3.1 文献

### 3.2 文献より読み取れる火災の概要

文献には 1923-1965 年に起きた火災を 1 件ずつ 1-3 頁程度にわたって記載があった。文章中の表などから読み取れるものを含め合計で 93 件の火災について記載があった。93 件の火災について年月日、発生地区を一覧にする（表 3.1）。現在のイスタンブールは 39 の行政区に分けられる。地区の分類はこの 39 の行政区とする。

表 3.1 1923-1965 年の火災一覧

年	月	日	地区	年	月	日	地区
1923	9	21	ファティ	1954	7	15	サルイエール
1923	11	9	ファティ	1954	11	26	ファティ
1923	12	27/28	不明	1955	1	11	不明
1924	1	30/31	アルナブトキョイ	1954	2	15	ファティ
1925	2	3	カドゥキョイ	1955	10	12	バクロキョイ
1926	4	13	ユスキュダル	1955	10	13	シシュリ
1926	10	8	カルタル	1956	1	8	ファティ
1927	8	23	ユスキュダル	1956	3	27	ベイコズ
1927	9	9	ユスキュダル	1957	1	9	ファティ
1929	1	22	シシュリ	1957	7	8	ベイオール
1931	8	5	シシュリ	1957	11	8	ファティ
1933	12	3	シシュリ	1958	5	22	ファティ
1934	8	4	マルテペ〜カドゥキョイ	1958	9	3	不明
1937	8	20	ベシクタシュ	1958	9	21	ベイオール
1941	8	21	ファティ	1959	1	6	ファティ
1942	8	28	ファティ	1959	7	20	ベイオール
1943	8	21	シシュリ	1958	8	9	ファティ
1943	8	10	ファティ	1960	3	25	ベイオール
1943	8	17	シシュリ	1960	9	2	不明
1944	9	14	ユスキュダル	1960	9	8	エユップ
1944	9	21	不明	1960	12	14	不明
1945	1	26	エユップ	1961	2	24	エユップ
1945	1	31	バクロキョイ	1961	4	30	カルタル
1945	2	2	ファティ	1961	8	5	ファティ
1945	2	21	カドゥキョイ	1962	2	21	ベシクタシュ
1945	3	20	サルイエール	1962	4	19	サルイエール
1945	6	21	ユスキュダル	1963	1	17	エユップ
1945	9	3	カドゥキョイ	1963	4	2	ファティ
1945	9	28	ファティ	1963	4	22	ベイオール
1945	11	7	ファティ	1963	8	15	ユスキュダル
1945	12	7	ベイオール	1963	8	15	カドゥキョイ
1946	1	15	ファティ	1963	8	26	エユップ
1946	6	2	カドゥキョイ	1963	9	4	サルイエール
1946	6	21	カドゥキョイ	1963	10	10	パイランパサ
1946	7	25	バクロキョイ	1963	10	22	ベイオール
1947	2	5	シシュリ	1963	12	24	ゼイティンブルヌ
1947	8	6	ベイオール	1964	2	25	ファティ
1947	10	14	エユップ	1964	3	14	ユスキュダル
1947	11	11	ベイオール	1964	3	16	ファティ
1948	4	1	ベイオール	1964	5	22	ベシクタシュ
1949	2	3	ベイオール	1964	6	1	不明
1949	7	9	カドゥキョイ	1964	6	19	ファティ
1950	1	6	ファティ	1964	8	21	ベイオール
1950	2	13	ファティ	1964	9	28	バクロキョイ
1950	4	19	カドゥキョイ	1964	10	26	ファティ
1952	7	23	ファティ	1964	12	10	ゼイティンブルヌ
1954	4	19	サルイエール				

### 3.3 イスタンブールの歴史

現在のトルコ共和国の国土の中心であるアナトリア地域は世界的にも歴史が古く、紀元前 18 世紀にはヒッタイト王国が建国されている。

イスタンブールの歴史は紀元前 7 世紀にギリシャ人入植者によりヨーロッパ側の半島先端にビザンティオンが建設され始まる。ボスポラス海峡を挟んで東アジアと西ヨーロッパに広がる市域はローマ帝国、ビザンツ帝国、ラテン帝国、オスマン帝国の 4 帝国の帝都となった。イスタンブールの歴史地区は 4 世紀以来東ローマ帝国の帝都コンスタンティノポリス、15 世紀にはオスマン帝国の帝都イスタンブールであった。現在のトルコ共和国は 1923 年に建国され、首都はアンカラに移されている。イスタンブールの年表<sup>7)8)</sup>を記す(表 3.2)。

表 3.2 イスタンブールの年表

イスタンブール		世界	
ギリシャ時代	B. C. 667 334	ギリシャ人によりビザンティオン建設 マケドニアのアレクサンドロス大王の支配下に入る	B. C. 27 ローマ帝政開始
ローマ時代	A. D. 196 324 330 330 360 380	ローマのセプティミウス・セヴェルスが征服 コンスタンティヌス大帝がローマ帝国を掌握。町の再構築計画着手 首都をローマからコンスタンティノープルに遷都 コンスタンティウス帝によりアヤ・ソフィア大聖堂建立 ローマ帝国キリスト教を国教化	A. D. 313 ローマ帝国キリスト教公認  375 ゲルマン民族大移動開始
ビザンツ時代	395 412 537 674  1071  1204  1261  1391  1402	コンスタンティノープル東ローマ帝国の首都となる テオドシウス帝の大城壁着工 ユスティニアヌス大帝アヤ・ソフィア大聖堂再建 アラブ大征服、ビザンツ帝国シリア、エジプト、北アフリカを失い、コンスタンティノープルもアラブ海軍に包囲  ビザンツ軍大セルジューク軍に敗れる  第 4 次十字軍ヴェネツィアの教唆によりコンスタンティノープルを占領、ラテン帝国樹立  ビザンツ帝国コンスタンティノープル奪回  ムラトを継いだバヤズィット 1 世 1402 年まで 4 次にわたりコンスタンティノープル包囲  アンカラの戦いでバヤズィット 1 世ティムールに敗れる	395 ローマ帝国東西分裂 410 西ゴート人のローマ蹂躪 476 西ローマ帝国滅亡  622 イスラム暦元年、ムハンマド聖遷  1077 トルコ人の一派イラン高原で大セルジューク朝樹立 1096 第 1 回十字軍  1243 大セルジューク朝モンゴル軍に敗れ、属国化  13 世紀末 アナトリア西北端にオスマン朝登場、ジハード(イスラムの聖戦)活発化 1326 オスマン・トルコ、ブルサ征服、首都とする ムラト 1 世バルカンに進出、アドリアノープル征服 1362 頃
オスマン時代	1453  1470 1478  1516	メフメット 2 世コンスタンティノープル征服。ビザンティン帝国滅亡  ファティフ・モスク完成 トプカプ宮殿完成  シリア、パレスチナ併合	1467 応仁の乱  1492 コロンブス、アメリカ大陸発見 1498 ヴァスコ・ダ・ガマインド航路開発

	1517	エジプト併合		
	1521	ハンガリー侵攻、ベオグラード占領	1519	マジェラン世界1周。カール5世神聖ローマ帝国皇帝
		ロードス島攻略		
	1522	第1次ウィーン包囲		
	1529	イラクへ侵攻、バクダッド陥落		
	1534	イスタンブールにコーヒーが伝来		
	1555	スレイマニエ・モスク完成	1588	スペイン無敵艦隊、英国艦隊に敗北
	1557	ブルー・モスク完成	1600	関ヶ原の合戦
	1616	イエニ・モスク再建完成		
	1663	第2次ウィーン包囲失敗		
	1683	ドルマ・バフチェ宮殿完成		
			1789	フランス大革命
			1814	ウィーン会議。ナポレオン没落
			1840	中国アヘン戦争
	1853	クリミア戦争でセリミエの軍病院でナイチンゲール活躍	1853	クリミア戦争～1856
			1854	ペリー日本へ来航
			1868	日本、王政復古
	1875	地下鉄開通(ヨーロッパ大陸初)		
	1876	オスマン帝国憲法発布、議会成立		
	1888	小松宮彰仁親王訪土		
	1889	オリエント急行開通	1889	大日本帝国憲法発布
	1890	軍艦エルトゥールル号来日。和歌山県大島沖で遭難。日本海軍生存者をトルコに搬送		
	1902	2階建ガラタ橋完成～1992	1904	日露戦争
	1914	第1次世界大戦。オスマン帝国、ドイツ、オーストリアに加担参戦		
	1918	オスマン帝国敗北	1917	ロシア大革命
	1919	ギリシャ、イズミールに侵攻。連合軍イスタンブール占領。セーヴル条約締結		
	1920	ムスタファ・ケマル・パシヤの指揮下でギリシャに勝利。スルタン制廃止。		
	1922			
共和国時代 (現在のトルコ)	1923	ローザンヌ条約締結。トルコ共和国成立。オスマン帝国消滅。ケマル・アタチュルク初代大統領就任。首都アンカラに遷都。		
	1924	日土国交樹立		
	1925	イスタンブールに大使館開設(中東地域初の大使館)		
	1926	日土協会設立		
	1938	アタチュルク大統領執務中に急逝	1939	第2次世界大戦～1945
	1973	第1ボスフォラス大橋開通	1945	トルコが独・日に対し宣戦布告
			1960	トルコでクーデターが起こる
	1989	第2ボスフォラス大橋開通		メンデレス内閣の失脚

本論での研究対象年代は、オスマン帝国時代の1478-1918年(表中 朱色)と1923年にトルコ共和国が建国されてから「İSTANBUL YANGINLARI (イスタンブールの火災)」<sup>3)</sup>発行された1965年(表中 青色)までである。



#### 4 イスタンブール火災の分析

##### 4.1 年別火災発生件数

1923-1965年の間に発生した93件の火災の年別発生件数分布(図4.1)を示す。火災が多く発生している1945年は第二次世界大戦の影響、1963-1964年は1960年にクーデターが起こりその後も学生運動や労働者の運動、クーデター未遂などが起き、政情不安が続いたことの影響が推測される。

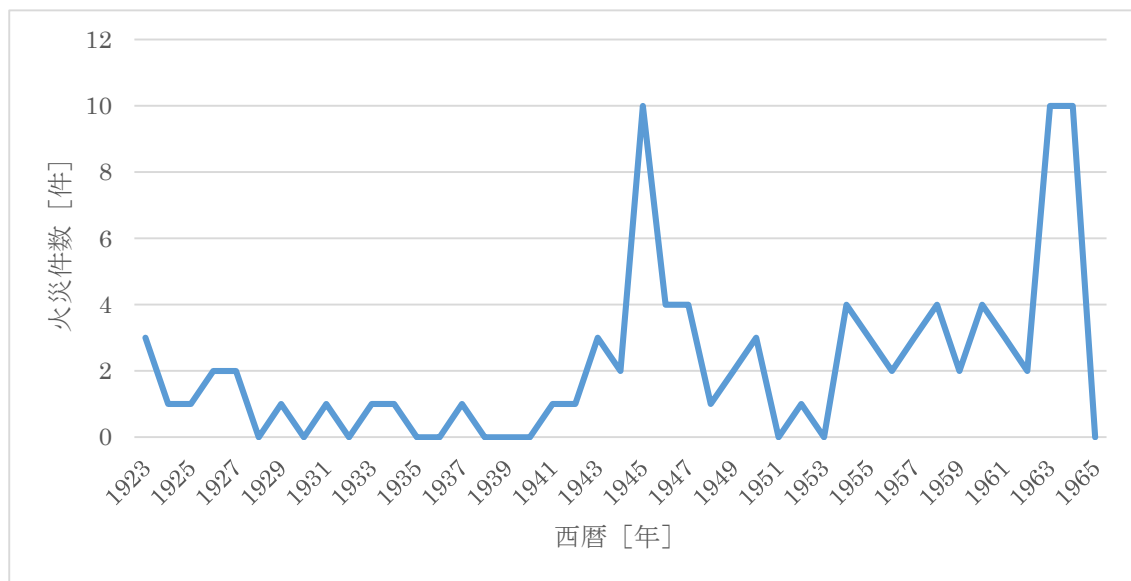


図 4.1 年別火災発生件数分布 (1923-1965年)

同様に1478-1918年の火災を発生年別(図4.2)と防火に関する制度の導入時期(表4.1)を示す。440年分のデータであるため40年ずつ区切り分布を示す。17世紀後からオスマン帝国の衰退がはじまるため、1718-1757年に多く発生している火災については政治情勢も要因に挙げられるが、1720年の消火ポンプの導入が防火対策として機能していない結果となった。一方、1811年の防火水槽の設置後は火災が減少傾向にある。

表 4.1 防火に関する制度や出来事

西暦	防火に関する制度等
1701	グランドバザールの組積造化
1720	消火ポンプの導入
1794	防火水槽の設置 I
1811	防火水槽の設置 II
1826	消防隊の軍隊からの独立
1848	建築条令の発布

(出典：イスタンブールにおける15-20世紀の都市火災<sup>1)</sup>)

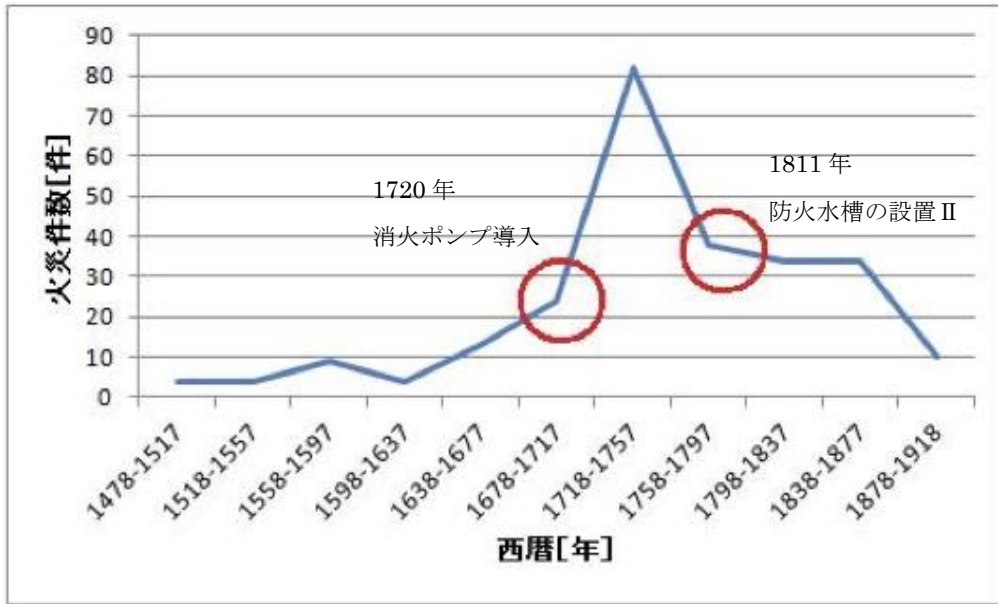


図 4.2 年別火災発生件数分布 (1478-1918 年)  
 (出典：イスタンブールにおける 15-20 世紀の都市火災<sup>1)</sup>)

#### 4.2 火災の発生地区

イスタンブール県は 39 の行政区に分けられる。そのうちの南部に広がりマルマラ海に面する地域がイスタンブール歴史地区（旧市街地）である。図 4.3 に火災の発生場所の分布を示す。図中の青い円の大きさは火災発生件数を表す。

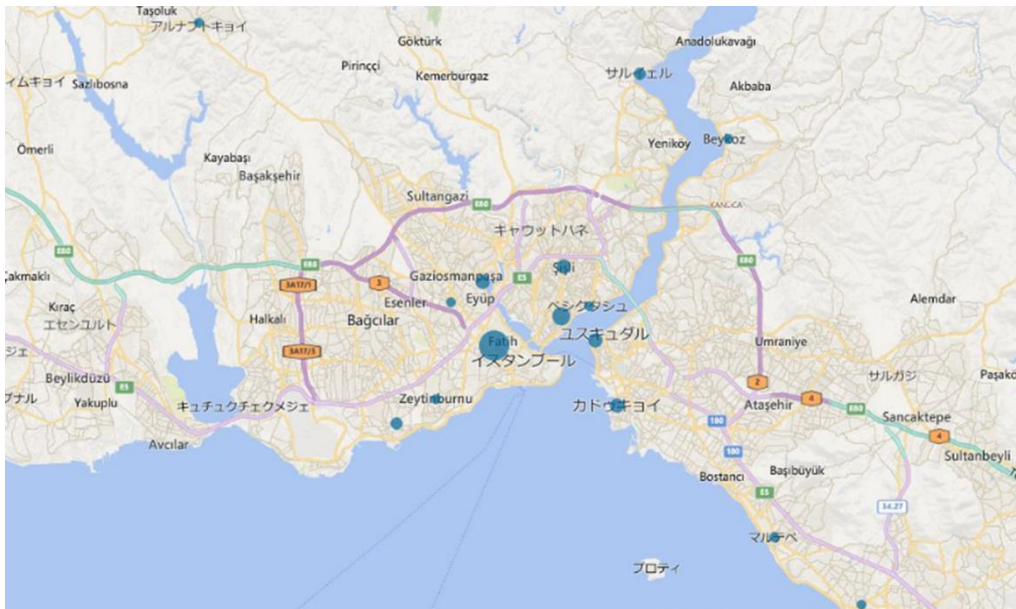


図 4.3 火災発生場所分布

最も多いのがファティ地区（旧市街地）、次にベイオール地区（新市街地）、カドゥキョイ地区だった（図 4.4）。いずれもイスタンブールの中心地であり、特にファティ地区は城壁に囲まれた歴史地区で裁判所や寺院（ブルーモスク）、グランドバザールなどが点在し、現在も観光地として人気の高い地域である。

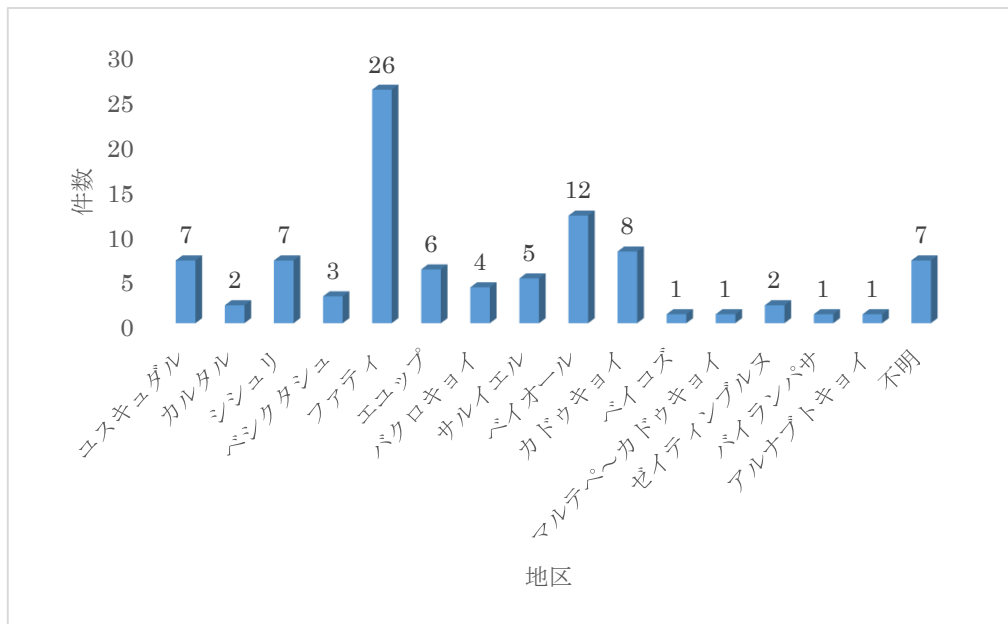


図 4.4 地区別火災発生件数分布

1478-1918年の火災発生件数が多いのは旧市街地区で258件中151件の火災が発生している。火災の発生場所内訳を示す（図 4.5）。次いでガラタ地区、ユスキュダル地区と続く。旧市街地はそのほぼ全域がファティ地区であり、ガラタ地区はベイオール地区の一部であるため読み替えることができる。1923-1965年の火災と1478-1918年の火災は同様に旧市街地を中心に多く発生していることがわかる。

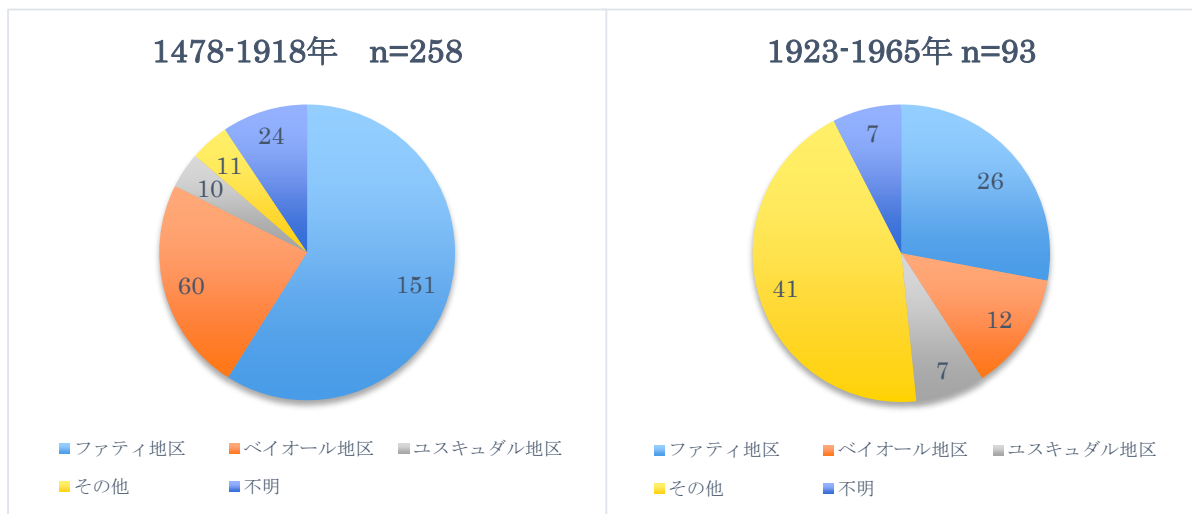


図 4.5 1478-1918年、1923-1965年の出火場所の内訳  
 （出典：イスタンブールにおける15-20世紀の都市火災<sup>1)</sup>）

### 4.3 火災の発生月

1923-1965年に発生した火災について、その発生月を示す(図4.6)。図4.6の折れ線グラフ(左y軸)より、8-9月(夏-秋期)が最も多く、次に1-2月(冬期)に火災が多いことがわかった。

1478-1965年の火災発生件数を月別にみると、3-4月(春期)、7-8月(夏期)に多く発生している。イスタンブールが温度は東京とほぼ同様なのに対し、湿度は年間を通して高いが、夏期より冬期の方が高いことから、高温乾燥の気候が関係していると考えられる。しかし1923-1965年の火災では3-5月が最も少なく、傾向に違いが見られた。

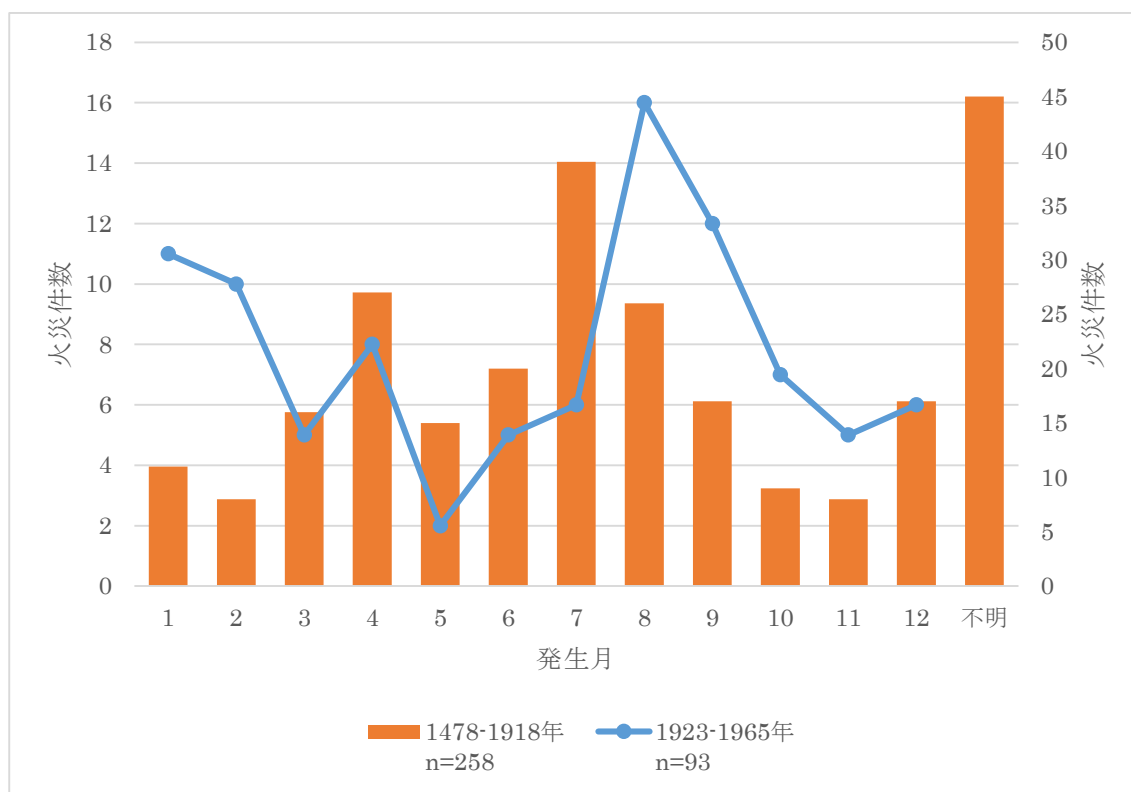


図 4.6 月別火災発生件数分布

この傾向の違いを東京都とイスタンブールの気候の違いで比較してみる(図4.7、4.8)。イスタンブールは湿度が年間を通して高いが、特に冬期に高く、東京では夏期に湿度が高い。

イスタンブールでは1478-1918年、1923-1965年の両方が夏期に火災が多く発生している。日本の火災は50%以上が冬期に発生しており、これは火器の使用が要因として挙げられるが、イスタンブールも日本と同じく温帯に属しており、火器の使用は冬期に多いと考えられる。

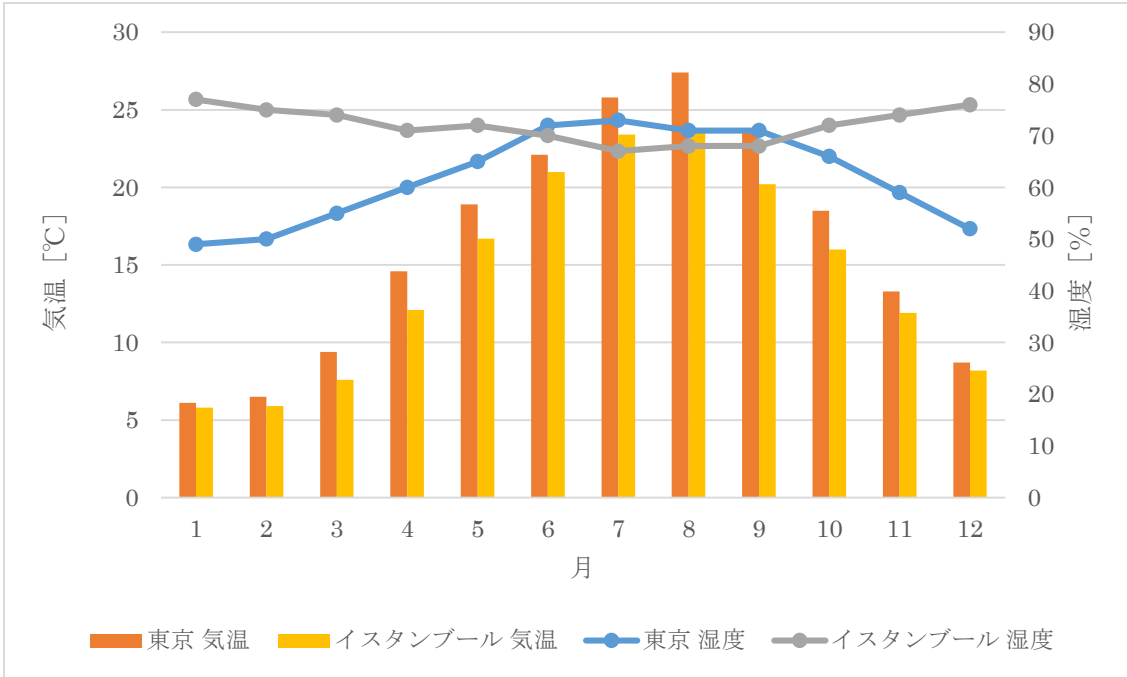


図 4.7 イスタンブールと東京の気温と湿度

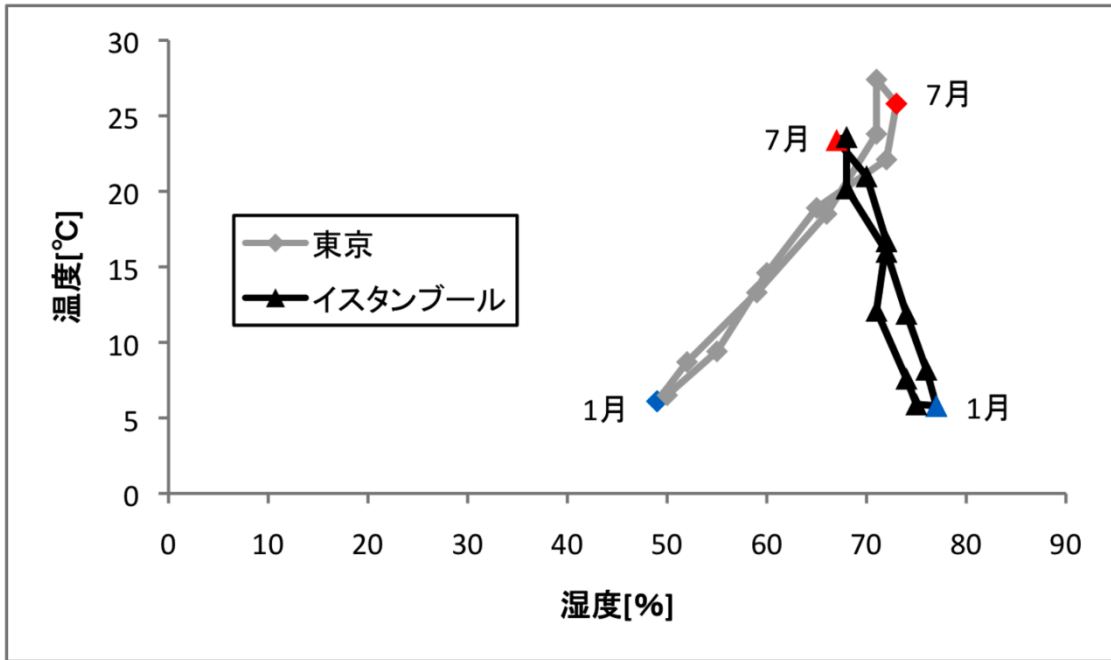


図 4.8 クリモグラフ

(出典：イスタンブールにおける 15-20 世紀の都市火災<sup>1)</sup>)

#### 4.4 火災発生場所の用途

1923-1965年の火災発生場所は不明なものも多いが、火災の発生場所を建物の用途別に分類し、1478-1918年の火災258件と比較した(図4.9)。

1923-1965年で最も多いのは倉庫・工場16件(17.2%)で、次に公共・教育機関である。住宅以外の用途の建物からの出火が40%以上を占めていることがわかる。

一方、1478-1918年では住宅が30件(11.6%)で最も多く、次に店舗・飲食店、城壁・門の順となった。こちらも住宅以外の用途が約40%ある。

1478-1918年の火災では1923-1965年には0件の宮殿、寺院、城壁・門といった用途が見られ、これは、1922年に現在のトルコ共和国になる以前、17世紀後半から衰退し始めたオスマン帝国の不安定な政治情勢が要因であると考えられる。

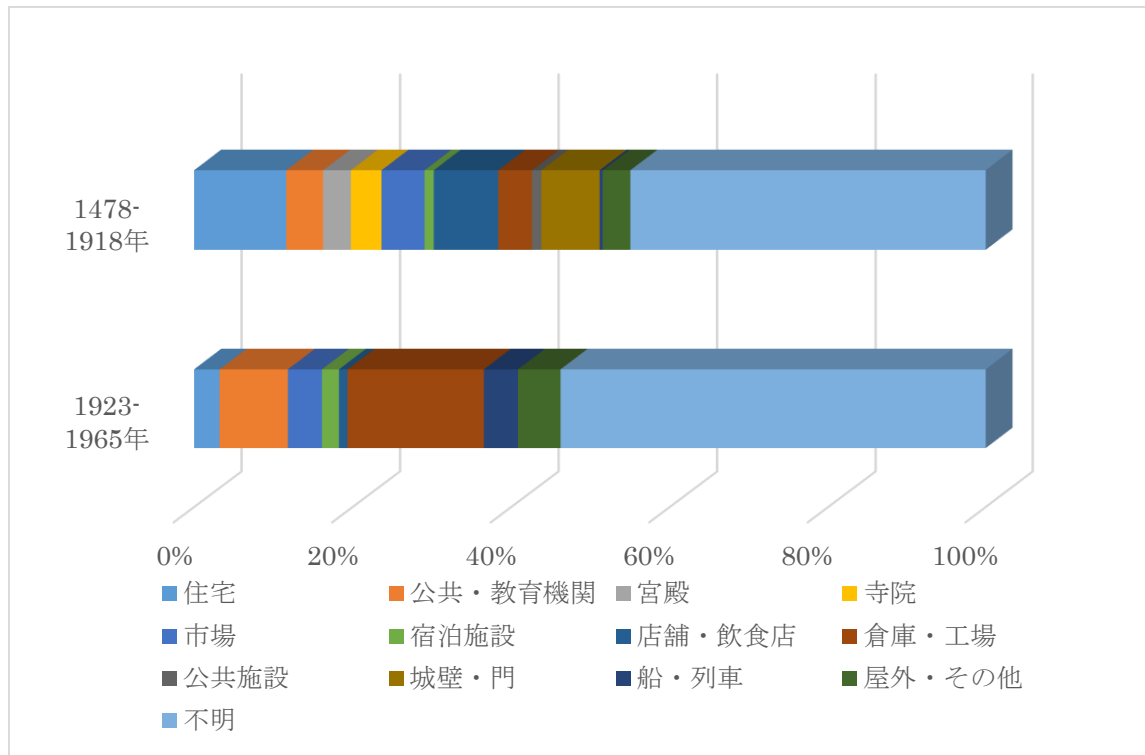


図 4.9 出火場所の用途比較

## 5 まとめ

### 5.1 まとめ

今回の研究対象とした「İSTANBUL YANGINLARI」に記載のイスタンブールで発生した合計 93 件の火災は、歴史地区（ファティ地区）で発生したものが多く、1478-1918 年の火災と比較しても、火災発生場所は建物・人口が密集している旧市街地に多いことは共通していた。建物の用途、火災の発生月では傾向の違いが見られた。

建物の用途に関しては住宅の火災発生割合が減少しており、工場や倉庫の火災が目立つ。その大きな要因は、この文献に記載されている火災件数が 42 年間で 93 件であり、消火活動に影響のあるものや記録すべき火災について記述され、すべての火災を対象にしていないことと思われる。東京都の火災では住宅が 90%以上を占めているため、小さな火災を含めれば、建築物の用途などは異なる傾向が見られると考える。

火災の発生月に関しては 1923-1965 年の火災と 1478-1918 年の火災共に夏期に多く発生しており、気候による要因が考えられるが、前述のとおり全ての火災について記載がないため、比較が難しいと考える。

### 5.2 今後の課題

「İSTANBUL YANGINLARI」には、消火活動について詳しい記述がある。今回の翻訳ではイスタンブールでの消防設備や法整備など、消火活動に関わる記述は読み取れていない。今後、消火設備の導入や規制によって火災の傾向がどう変わり、また、20 世紀の生活習慣や高度成長などの文化的な変化に伴い、新たな火災傾向やその対策について等、調査・分析することも多くあると考える。

## 参考文献

- 1) 倉橋 佑介：イスタンブールにおける 15-20 世紀の都市火災 東京理科大学 辻本研究室卒業論文、2011 年度
- 2) Mustafa Cezar:Osmanli Baskenti Istanbulk、2002
- 3) TARIK ÖZAVCI : İSTANBUL YANGINLARI、1965
- 4) 廣瀬 拓哉：火災保険地図とイスタンブールの都市火災 東京理科大学 辻本研究室卒業論文、2013 年度
- 5) 田中傑：イスタンブールにおける 15-20 世紀の都市火災 日本建築学会大会学術講演梗概集、2012
- 6) 西田幸夫：江戸東京の火災被害に関する研究 名古屋大学 博士論文、2004.3
- 7) 鈴木董：イスタンブール歴史散歩 河出書房新社、1993
- 8) 洪澤幸子 池澤夏樹：イスタンブール歴史散歩 新潮社、1994



## 謝辞

本研究について、辻本誠教授には的確な指導をいただき感謝申し上げます。辻本教授の学問に対する真摯な姿と、研究への熱意や好奇心を感じ、尊敬の念を感じずにはられませんでした。

西田幸夫先生には翻訳作業に手間取り遅れていた本研究に、丁寧な指導と多くの助言をいただき、ありがとうございます。

また、辻本研究室の前川さん、院生の皆様、学部生の皆様にも大変お世話になりました。1年間と短い期間ではありましたが、辻本研究室での経験は大変貴重なものとなりました。辻本教授をはじめ研究室の皆様に心より感謝申し上げます。

## 付録